ニトマチック® おはこプラス

ＳＮ－１０１ＤＫＨ型

取扱説明書

SERIAL No. MD

日東電工株式会社
製造 日東精機株式会社

本取扱説明書（以下取説）の取扱いについて、次の事項を守って下さい。

1．取説による注意事項は、必ず守って下さい。

2．保管場所は、作業者の方がすぐに閲覧できる所にして下さい。

3．保管には十分気をつけて、汚れや破損の無き様お願いします。

4．本機械を移転・転売される場合は、必ず、本取説を添付して下さい。

目 次

１．安全に関して	Ｐ．１
１－１　機械の取り扱い上の注意事項	Ｐ．１
１－２　取説における用語及び記号の説明	Ｐ．２
１－３　機械のラベルの説明	Ｐ．２
１－４　機械の色の説明	Ｐ．３
２．機械の危険場所	Ｐ．４
３．用語集	Ｐ．５
４．目常点検	Ｐ．５
４－１　点検項目	Ｐ．５
４－２　日常チェックリスト	Ｐ．６
５．組立・設置方法	Ｐ．６
５－１　開梱	Ｐ．６
５－２　点検	Ｐ．６
５－３　設置場所	Ｐ．６
５－４　設置方法	Ｐ．７
５－５　組立方法	Ｐ．７
５－６　電源接続	Ｐ．８
６．主要仕様	Ｐ．９～１０
７．機械の主要部の名称	Ｐ．１１
８．操作説明	Ｐ．１２
８－１　操作上の注意事項	Ｐ．１２
８－２　運転開始手順	Ｐ．１３
８－３　運転終了手順	Ｐ．１３
８－４　非常停止	Ｐ．１３
８－５　高さ調整	Ｐ．１４
８－６　幅 調 整	Ｐ．１５
８－７　テープのセット	Ｐ．１６
８－８　テープリールの調整	Ｐ．１７
８－９　ダンボールケースの流し方	Ｐ．１８～１９

９．調整・保守・定期点検　Ｐ．２０
９－１　週 点 検　Ｐ．２１
９－２　月 点 検　Ｐ．２１
９－３　６カ月点検　Ｐ．２１
９－４　ベルトの交換について　Ｐ．２２
９－５　トラブル発生の手引き　Ｐ．２３～２７
９－６　パーツリスト・分解図　Ｐ．２８～４５
１０．電気図面

１１．保証・消耗部品・故障の御照会に関して　Ｐ．４６

‘９６．１改定

１．安全に関して

１－１）機械の取扱い上の注意事項

「安全上の注意事項」

本機を安全に御使用して頂くためには、次の事項を厳守して頂く様お願いします。
守られなかった場合は、身体に損傷が及びます。

危険箇所	危険内容	作業上の注意
カッター 作動板	カッターの刃先がするどくとがっており、指先・手等の身体が触れると切れます。	カッターを交換する。又はテープを通し替える時は、薄手の手袋をして手を保護して下さい。
上面ベルト 下面ベルト	機械運転時に、上・下面ベルトが連続して回っており、ベルトに触れると、手や衣服等を巻き込み危険です。	1）作業服について ①長袖のボタンは止めて下さい。 ②ネクタイは外して下さい。 ③上着のすそはズボンの内へ入れて下さい。 ④帽子を着用し、頭髪を保護願います。
		2）運転中は、機械（ベルト部分）に触れないで下さい。
		3）機械に触れる時は、必ず電源を切ってから行って下さい。 ①テープを交換する時。 ②機械を調整する時。 ③機械を清掃する時。
漏電遮断器 運転スイッチ	電気が接続されており、接続部に触れると感電します。	1）部品交換時は、必ず電源を切ってから行って下さい。
		2）濡れた手で操作しないで下さい。
		3）感電事故防止の為に、プラグ後のアース線（緑色）を必ず接地してから運転をして下さい。
修理・点検	機械を運転状態で行うと、はさみ込み、巻き込まれ感電します。	1）コンセントからプラグを抜く。
		2）時計・指輪を外す。
		3）専門知識を有する人が行う。

1－2）取説に於ける用語及び記号の説明

本取説には、次の様な警告表示をしています。

記号	定　義
	警告　これを守らないと死傷事故又は機械の故障につながります。
	警告　これを守らないと感電による死傷事故につながります。

1－3）機械のラベルの説明

機械には、次の様なラベルが貼付けてあります。

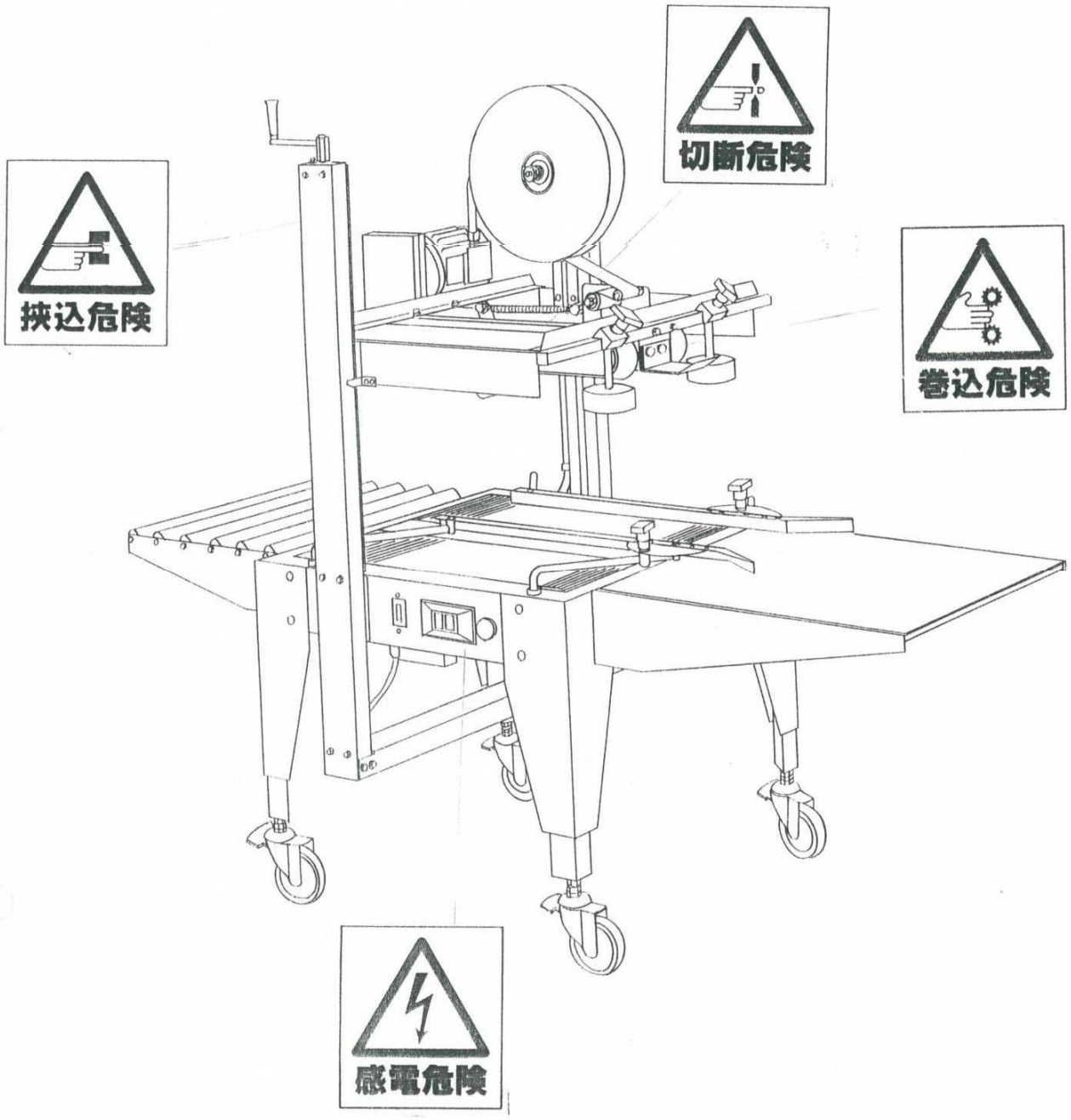
記号	定　義
切断危険	カッターがあります。切断・裂傷等の重大の事故が発生します。
巻込危険	回転物等に巻込まれる可能性があり、巻込まれると重大な事故が発生します。
挟込危険	身体等が挟み込まれる危険があり、挟み込まれると重大な事故が発生します。
感電危険	電装品があり、感電する可能性があります。感電すると重大な事故が発生します。
危険注意	危険場所です。操作点検・掃除等には、十分注意して作業をして下さい。

1－4）機械の色の説明

機械には、次の様な塗装がされています。

記号	定　義
赤　：	死亡又は重大な身体障害が発生する危険があります。
橙　：	死亡又は重大な身体障害が発生する可能性があります。
黄　：	中程度又は軽微な身体障害が発生する可能性のある危険、又は物的損害のみが発生する可能性があります。

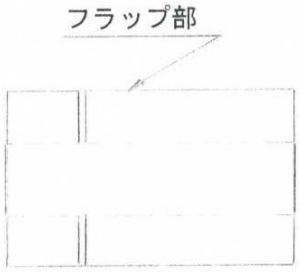
2．機械の危険場所



3．用語集

・作動板・・・・テープを貼付け、カットする装置

・フラップ・・・ダンボールケースの上下面の蓋の部分



4．日常点検

掃除を行う時は、漏電ブレーカーを必ず切り、作業を行って下さい。
巻き込まれ、感電等の重大事故が発生します。

カッター刃を取り扱う場合は、必ず手袋等の保護具を使用して下さい。

4－1）点検項目

①機械の掃除

機械上及び機械内のカートンの粉じんを掃除機で吸い取る。

②カッター刃の掃除

カッター刃先の付着物をシンナーで拭き取る。

③非常停止ボタンの動作確認をして下さい。

ａ）機械を運転状態とし、ベルトを起動する。

ｂ）非常停止押釦スイッチを押す。

ｃ）ベルトが停止すれば、正常です。

異常の場合は、機械を使用しないで下さい。

又、機械を使用する場合は、押釦スイッチを交換してからお使い下さい。

④電線の損傷がないか確認して下さい。

損傷を発見した場合、機械を使用しないで下さい。

又、機械を使用する場合は、電線を交換してからお使い下さい。

⑤運転中に機械から異常音が発生していないか確認して下さい。

異常音が発生している場合、機械を使用しないで下さい。

使用される場合は、必ず原因を確認し、原因を取り除いてから使用して下さい。

4－2）日常チェックリスト

毎日の点検確認にお使い下さい。

項目＼日付	／	／	／	／	／	／	／
機械の掃除							
カッターの掃除							
非常停止の確認							
電線の確認							
機械の異常音							

担　当　者　＿＿＿＿＿＿

5．組立・設置方法

5－1）開　梱

①はさみ等により、バンドを切断して下さい。

②外箱を取り除いて下さい。

③フォークリフト又はクレーンにより、機械をパレットから下に降ろして下さい。

フォークリフト・クレーンの運転は、有資格者が行って下さい。

機械を降ろす時は、機械の近くに寄らないで下さい。落下して重大な事故が発生します。

5－2）点　検

開梱が終わりましたら、次の点検を行って下さい。

①フレームの曲がりがないか確認して下さい。

②ボルト・ナットの落下、ゆるみがないか確認して下さい。

③電装品のゆるみ、落下がないか確認して下さい。

5－3）設置場所

①本機は、屋内にて使用して下さい。

②床は水平で、凹凸の無い場所に設置して下さい。

③水分・湿気・粉塵の多い場所は、設置しないで下さい。

５－４）設置方法

①図５－４－１の様な車輪が、本機には４個付いています。車輪の固定金具を上に上げると、ブレーキが解除になります。下に降ろすと、ブレーキがかかります。

②ブレーキを解除し、所定の位置まで移動して下さい。

③設置場所では、必ず固定金具を下に降ろし、全てのブレーキをかけて下さい。

④機械の高さを調整する場合、図５－４－２の様に、六角レンチにて脚　キャップボルトをゆるめ、上下に調整して下さい。

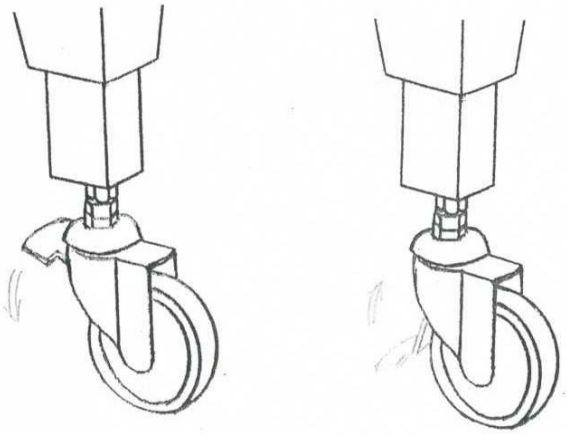


図５－４－１

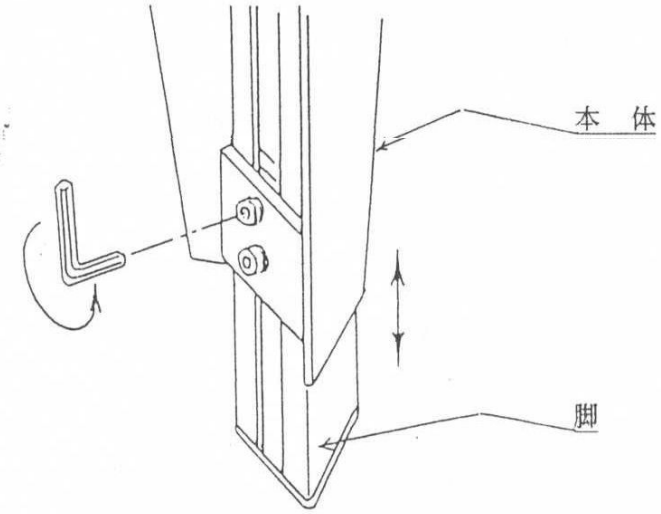


図５－４－２

５－５）組立方法

①付属の箱・搬出ローラー・搬入プレートを取り出して下さい。
（搬出ローラー・搬入プレートは、同一品ではありません。）

②図５－５－１の如く本体のピンに、搬出ローラー・搬入プレート側の４カ所の穴を、正しく差し込んでセットして下さい。

注意）機械本体入口側には⇒搬入プレート
機械本体出口側には⇒搬出ローラー

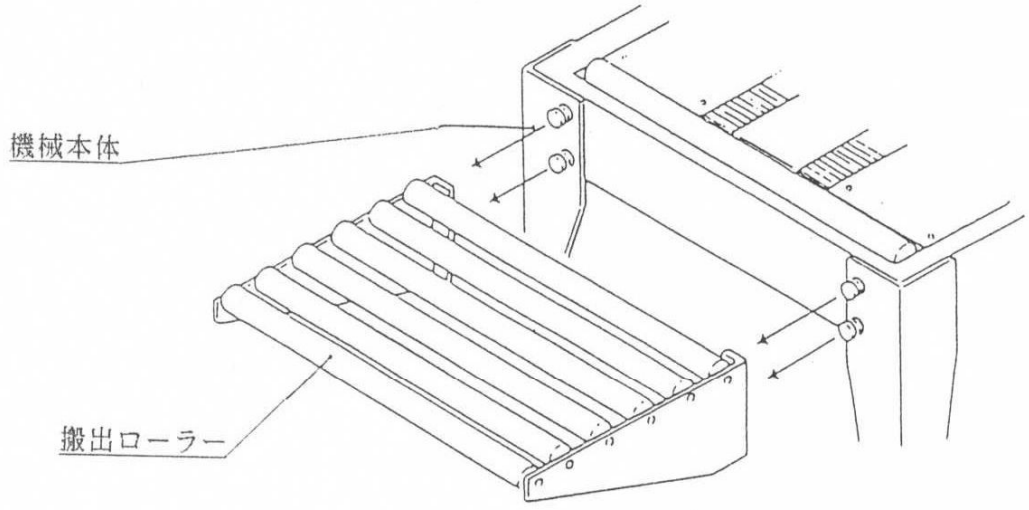


図５－５－１

５－６）電源接続

①プラグの根元より出ている線がアースです。

感電防止の為に、必ずアースを取って、運転して下さい。

②アース線ＡＣ１００Ｖのコンセントにプラグを差し込んで下さい。

6．主要仕様

a．当機種は、２通りの使用が可能な半自動タイプのカートンシーラーです。

①空箱の底面を粘着テープでシールされ、搬出される半自動タイプのカートンシーラーです。

②内容物を詰めた後の天面を、粘着テープでシールされ、搬出される半自動タイプのカートンシーラーです。

b．型式　　ＳＮ－１０１ＤＫＨ おはこ プラス

c．機械寸法

１７５０㎜(長さ)×８１０㎜(幅)×１４５０～１６５０㎜(高さ)

d．ライン高さ

６５０㎜（５９０～７９０㎜調整可能）

e．電　源

単相１００Ｖ，　５０／６０Ｈｚ

f．モーター

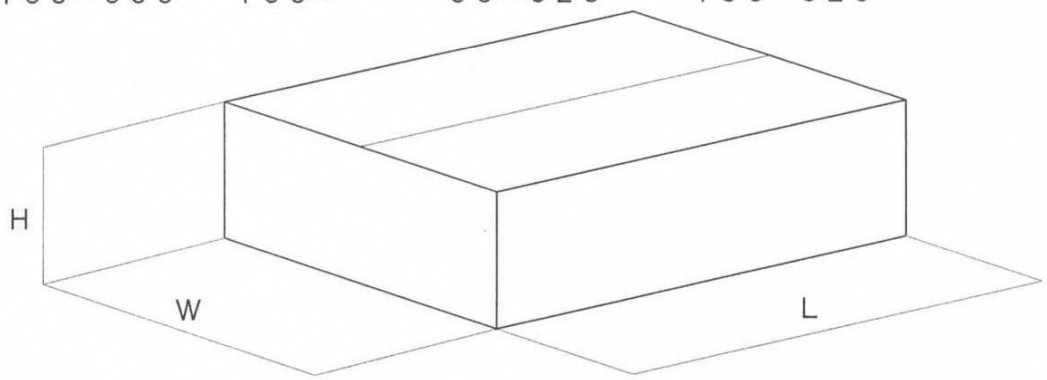
上面ベルト用・・・７０Ｗ

単相１００Ｖ・４Ｐ，５０・６０Ｈ

下面ベルト用・・・７０Ｗ

g．処理カートン寸法（㎜）

（幅）	（長さ）	高さ	（高さ＋１／２幅）
１５０～５００	１５０～	９０～６２０	１６５～６２０



h．重　量　　ｍａｘ　２０ｋｇ

i．テープの貼付・切断

自　動

※但し、ダンボール箱の上面フラップを完全に折込み、所定位置まで挿入して下さい。

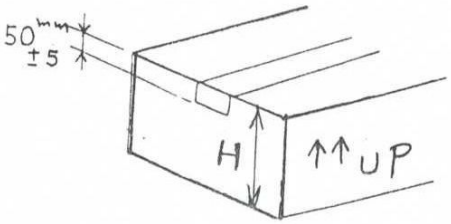
j．使用テープ

種　　類	テープ幅	テープ長さ
クラフトテープ	38～50mm	500m（MAX）
P.Pテープ厚さ　60μタイプ		1000m（MAX）
厚さ　90μタイプ		500m（MAX）

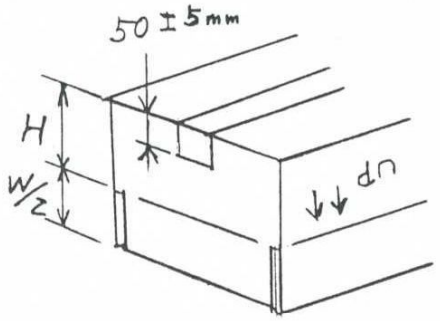
※テープ直径　350mmφ以内のこと。

①38mm巾テープをご使用の場合は、別売りのリールカラーでの対応となります。

k．テープの折り曲げ長さ



天面貼り

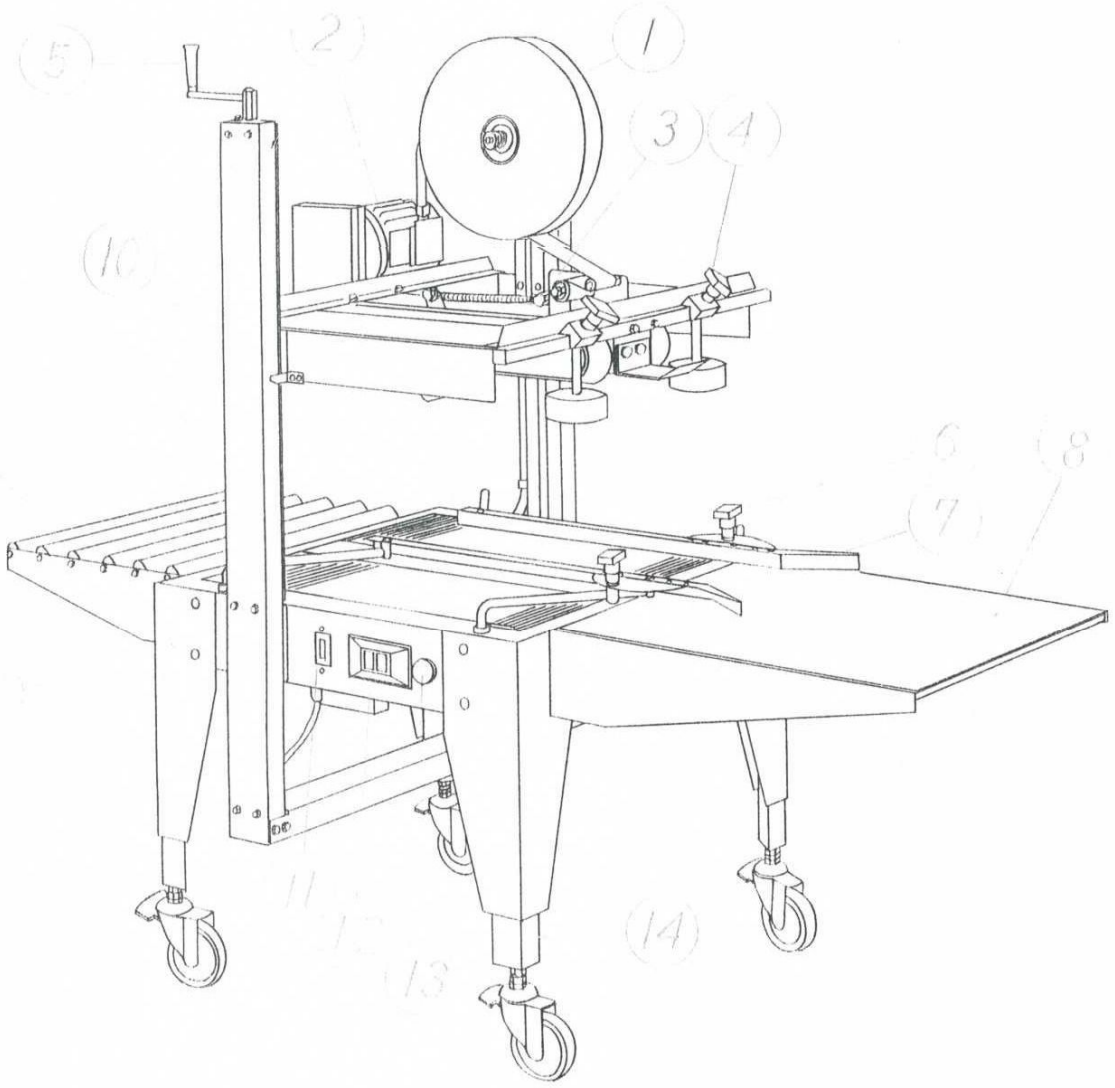


底面貼り

l．付属品

取扱説明書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1部
手　工　具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1式
本体カバー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1枚
カッター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1枚
カッターレバー用スプリング・・・・・・・・・・2個
ロールアーム用スプリング・・・・・・・・・・・1個
カッターカバー用スプリング・・・・・・・・・・2個
逆転防止ロール用スプリング・・・・・・・・・・2個
テープホルダー（上）（R）・・・・・・・・・・1個
テープホルダー（上）（L）・・・・・・・・・・1個

7．機械の主要部の名称(下図はＳＮ－１０１ＤＫＨおはこプラスを示します。)



1．粘着テープ（上貼り用）
2．モーター
3．上部テーピングユニット(作動板)
4．外フラップ開き防止装置
5．高さ調整ハンドル
6．固定ノブ（サイドガイド用）
7．サイドガイド
8．搬入プレート
9．機械本体
10．目盛り（高さ）
11．漏電遮断器
12．運転スイッチ
13．非常停止押釦スイッチ
14．脚
15．搬出ローラー

8．操作説明

8－1）．操作上の注意事項

機械を操作するときは、次の事を必ず守って下さい。これを怠りますと、機械のトラブル原因となるばかりか、重大な事故が発生します。

ａ）本機械には、ダンボールケース以外のものは使用しないで下さい。

ｂ）本機械にダンボールケースを流す場合は、上下各搬送ベルトに手を巻き込まれない様にして下さい。

ｃ）本機械よりテープ貼りされたダンボールケースを取り出す時は、身体を機械より外の位置にて取り出して下さい。
特に、腕が機内に入り、ベルトに巻き込まれる可能性があります。

ｄ）トラブルが発生したら、機械を停止させ、機械の電源を切り、処置して下さい。

ｅ）ダンボールケース内に製品が詰まっていない場合は、ダンボールケース内にかんしょう材やパット等を入れから、機械に流して下さい。

8－2）運転開始手順

運転を開始される前に、機械内に物がない事や、近くに人がいないことを確認して下さい。確認を怠りますと、重大な事故が発生します。

a）漏電遮断機①のスイッチレバー②を押し上げて、電源を入れて下さい。

b）運転スイッチ③『ＯＮ』を押して下さい。モーターが回転し、上下各搬送ベルトが起動します。

①漏電遮断機
②スイッチレバー
③運転スイッチ
④非常停止押釦スイッチ

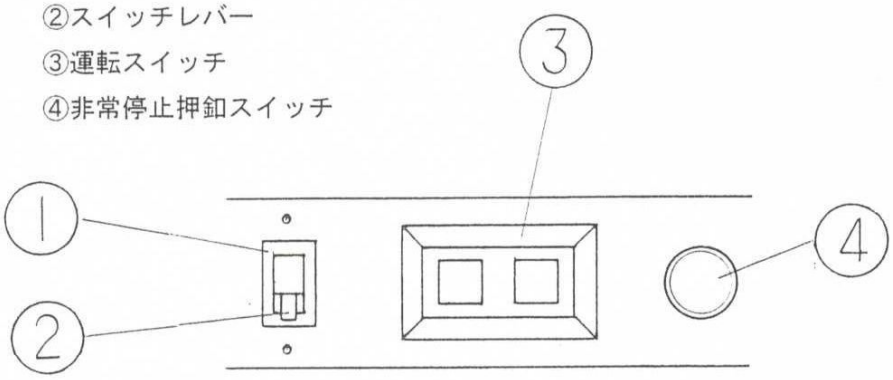


図８－２－１

8－3）運転終了手順

a）運転スイッチ③のスイッチ『ＯＦＦ』を押して下さい。
モーターが停止し、上下各搬送ベルトは停止します。

b）漏電遮断機①のスイッチレバーを押し下げて電源を切って下さい。

注意：作業終了後は、必ず、漏電遮断機①を、押し下げて、電源を切って下さい。

8－4）非常停止

a）機械運転中に、機械トラブルが発生した場合、非常停止押釦スッチ④を押して下さい。
上下搬送ベルトは、即停止します。

b）再度運転を行う場合は、機内のダンボールケースを取り除き、トラブルの原因究明を、行ってから、運転を行って下さい。

8－5）高さ調整

電源を切って、機械を停止させてから行って下さい。
巻き込まれ等の重大事故になります。

高さ調整は、上面搬送ベルトがダンボールケースの上面に接触するように、高さ調整ハンドルを回して、調整して下さい。ハンドルを右に回すと上昇します。
下限９０㎜～上限６２０㎜の間で調整できます。
ダンボールケースが軽くて、搬送しにくい時、上面ベルトを少し強めに、ダンボールケースに接触するように調整して下さい。

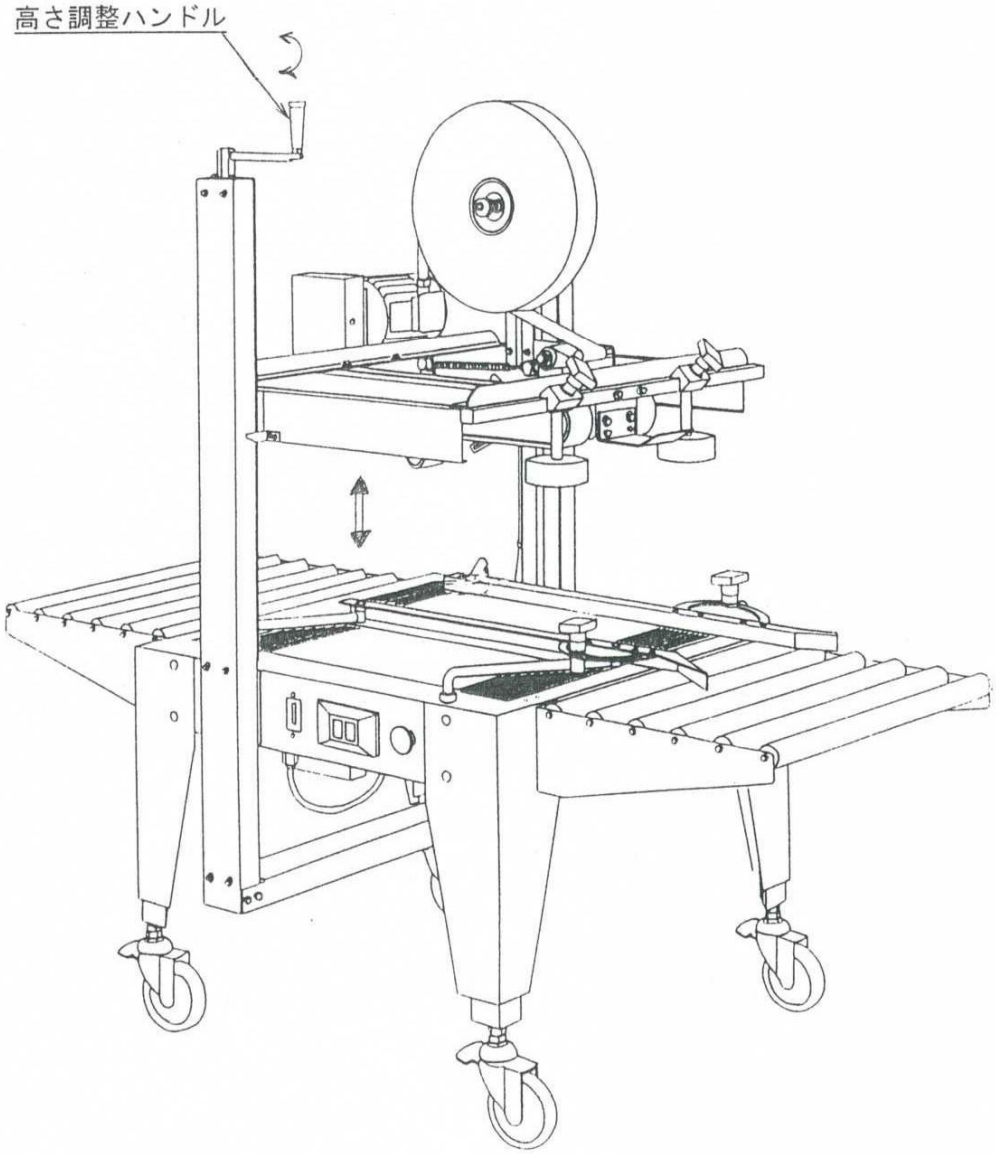


図８－５－1

８－６） 幅調整

電源を切って、機械を停止させてから行って下さい。
巻き込まれ等の重大事故になります。

巾調整は、両サイドガイドの固定ノブをゆるめて、ダンボールケースを機械センターに置き、サイドガイドが軽く接触する様に合わせてから、固定ノブを締め付けて下さい。
次に、上面搬送ベルトの両サイドの外フラップ開き防止ローラーの固定ノブをゆるめ、ローラーを手でスライドさせながら、ダンボールケースの巾に合わせ、固定ノブをしっかりと締め付けて下さい。（図８－６－１、図８－６－２参照）
幅　１５０㎜から５００㎜までのカートンケースが処理できます。

※外フラップ開き防止ローラーの幅位置の調整ついては、上方から見て、図８－６－２の如く、底面（天面）フラップのセンターとフラップ押さえ部の矢印を合わせてから、同ローラーをカートンの両側面に接触させます。

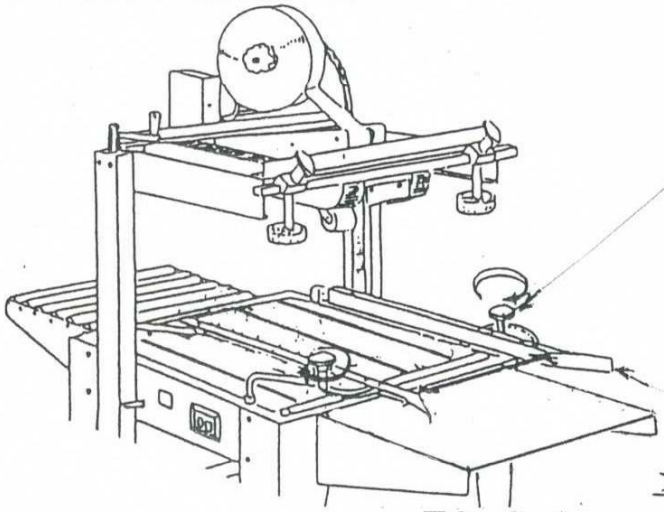


図８－６－１

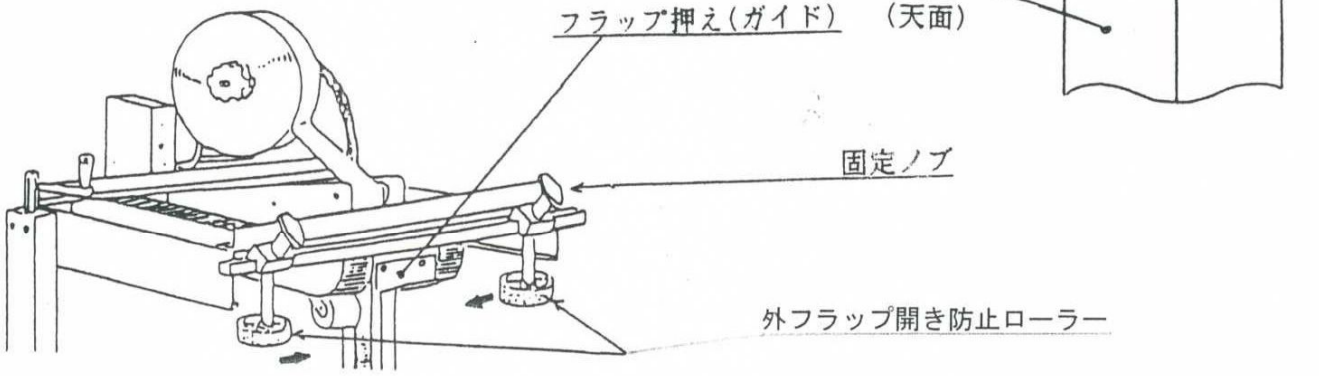


図８－６－２

8－7）テープのセット方法

カッターには触れないで下さい。
カッター刃による裂傷等の事故が発生します。

電源を切って、機械を停止させてから行って下さい。
巻込まれ等の重大事故になります。

a．粘着テープは、粘着面がカートンケース挿入側に向く様に、テープリールに押し込んで下さい。
b．ガイドローラーには、テープの背面を接触させて、通して下さい。
c．逆転防止ローラーには、テープの糊面を接触させて、通して下さい。
d．貼付ゴムローラーと、テープホルダーの間を通して、テープ先端を引っ張り出して下さい。
e．貼付ゴムローラーには、テープの背面が接触するようになれば、テープ装填は完了です。
f．以上 a ～ e の作業を行えば、テープセット完了です。

テーピングユニット（作動板）

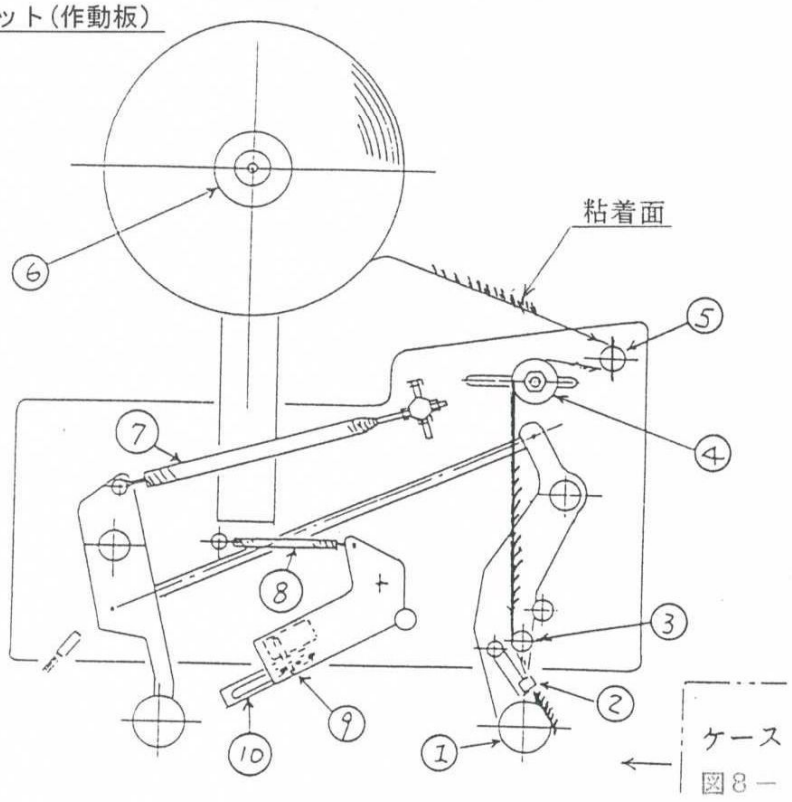


図8－　－1

①貼付ロール
②テープホルダー
③テープ保持ロール
④逆転防止ロール
⑤ガイドロール
⑥テープリール
⑦ロール用スプリング
⑧カッター用スプリング
⑨カッター
⑩アジャストレバー

８－８）テープリールの調整

電源を切って、機械を停止させてから行って下さい。
巻込まれ等の重大事故になります。

粘着テープ①の中心と、ダンボールケース箱の中心とが合っていない時は、ロックナット②をゆるめて、テープリールを左右に移動し、調整して下さい。
テープの巻きもどし力の調整は、ロックナット③にて行って下さい。
調整後は、必ず両ナットがしっかりロックするように締め付けて下さい。

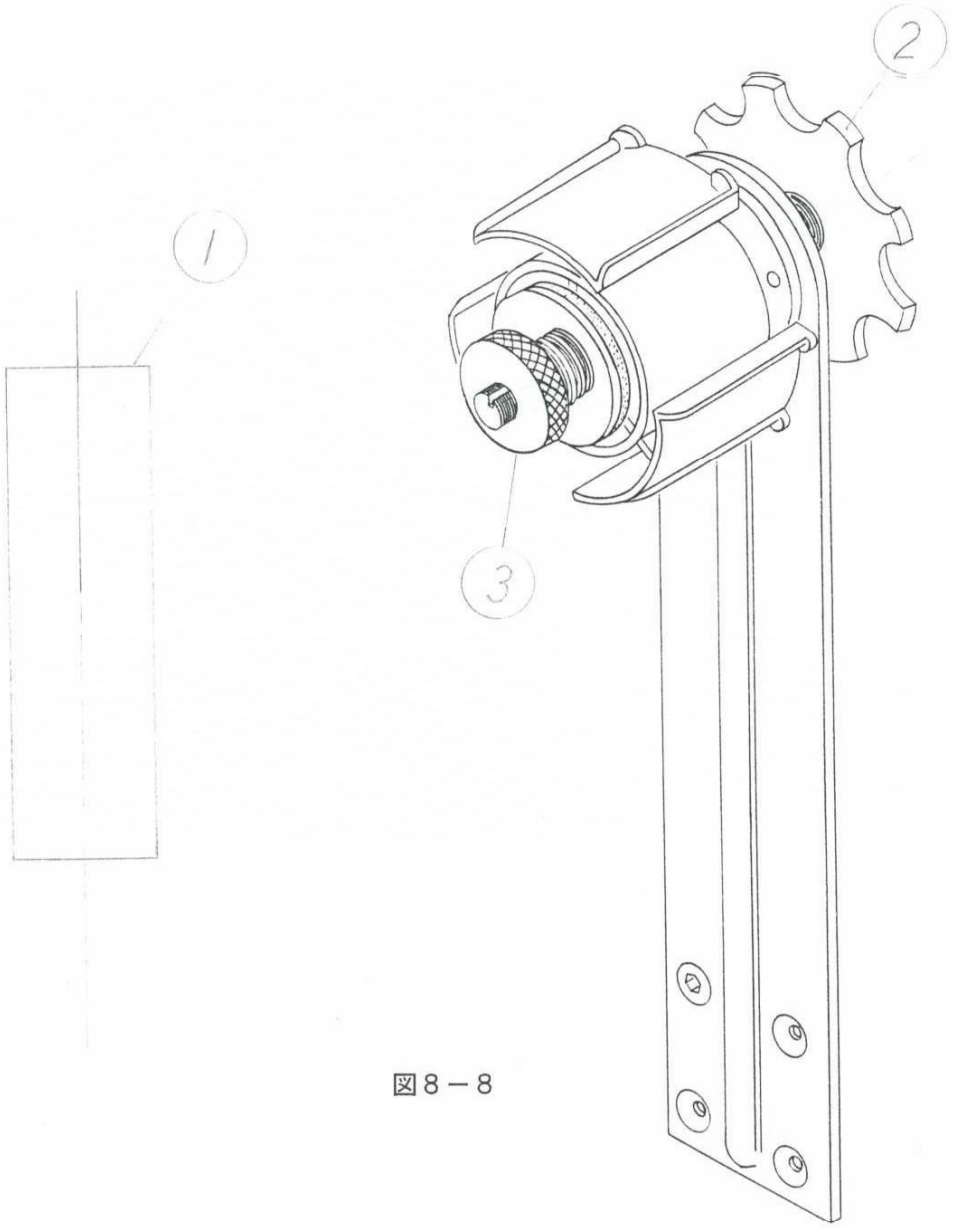


図８－８

８－９）ダンボールケースの流しかた

ａ）８－２）項、運転開始手順を行い、機械を運転状態にして下さい。

ｂ）カートンケースの上面フラップを、完全に折り込んでサイドガイドにそって、機械に挿入して下さい。

（空箱底面貼り）

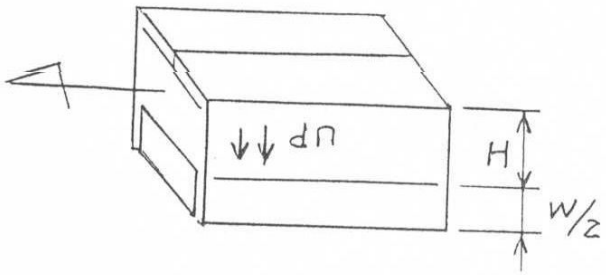


図８－９－１

（内容物を箱詰後の天面貼り）

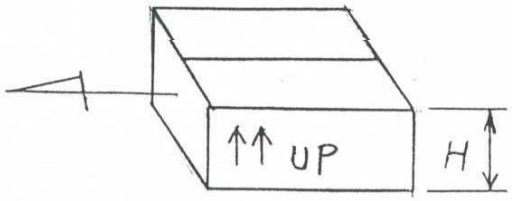


図８－９－２

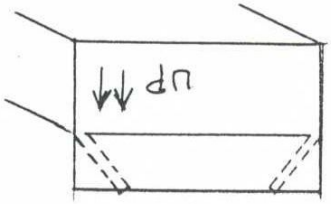
注意）底面貼りの注意事項

天面外フラップが、内側に折れ曲がると、搬送できません。

１）この時は、天面内フラップを、３０～４５°程度内側へ折り込んで下さい。

※外フラップが内側に、折れ曲がらなくなり、搬送可能となります。

２）通い箱、又は軟弱ケースは、基本的に処理出来ません。



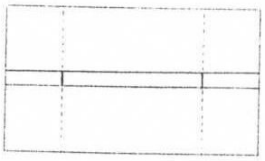
①前記１）項を行っても、ケース搬送が出来なくなります。

②貼付及び押さえロールやカッターレバーの押さえる力で、
底面フラップが大きくへこみ、テープ貼りが出来なくなります。

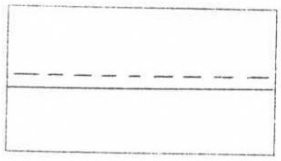
∴天面貼りも同じです。

※注　上面フラップを折り曲げる時には、下記の状態がないようにして下さい。

・両側面フラップのつき合わせの不良

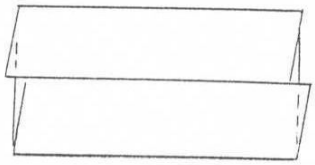


隙間



重なり

・両側面のフラップの食い違い



食い違い

c．図１－１ 上下面搬送ベルトと、サイドガイドがカートンケースを完全にはさむと、カートンケースは搬送ベルトにより搬送されますので、カートンケースから手をはなして下さい。

d．カートンケースが図１－１の作動板から搬送されれば、すぐに次のカートンケースを機械に挿入することができます。

e．作業終了後は、必ず、押しボタンスイッチを『ＯＦＦ』にし、『切』にしてからプラグを抜いて下さい。

※注　プラグをいきなり抜くと、次の作業開始時に、プラグをコンセントに差し込むと同時に、モーターが回転しますので、非常に危険です。
絶対に止めましょう!

9．調整・保守・定期点検

保守点検を行う場合は、必ず機械わ停止させ、コンセントを抜いて行って下さい。
機械が動作したまま、又は電源が入ったまま行いますと、重大事故が発生します。

工具は、用途にあったものを正しく使用してください。間に合わせの工具、不敵格な工具は、使用しないでください。打撲・裂傷等の事故が発生します。

調整・保守・定期点検は専門知識を有する人が行って下さい。

９－１）週点検

次の点検は、１週間に１回行って下さい。

ａ．漏電遮断機の動作点検

確認方法

①漏電遮断機の電源を「入」にする。

②赤いテストボタンを押す。

③漏電遮断機が「切」になれば、正常です。

異常の場合は、機械を使用しないで下さい。
又、漏電遮断機を交換して下きい。

９－２）月点検

機械を必ず停止させ、コンセントからプラグを抜いて行って下さい。
重大な事故になります。

ａ．ベルトの点検

①ベルトの表面の凸部分の摩耗を調べて下さい。

凸部分が平になっていますと、搬送不良になります。

９－３）６カ月点検

機械を必ず停止させ、コンセントからプラグを抜いて行って下さい。
重大な事故になります。

ａ．ボルト・ナットの増し締め

ｂ．作動板への給油

ｃ．絶縁測定

ｄ．配線の損傷チェック

９－４）ベルトの交換について

※ベルトの表面の磨耗が著しいと、ケースが搬送出来なくなります。
この時は、交換が必要です。

①上面ベルトの交換・・・図９－４－１参照

ａ．ベルトカバーを外す。

ｂ．『六角ボルト』２本を均等に左に回して『テンションプーリー軸』を矢印側に移動し、ベルトの張りをゆるめる。

ｃ．ベルトを外し、新品に交換する。

ｄ．『六角ボルト』２本を均等に右に回して『テンションプーリー軸』を矢印と反対側に移動し、ベルトを適度に張る。

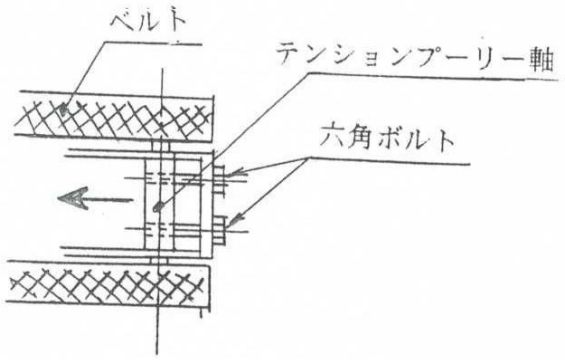


図９－４－１

②下面ベルトの交換・・・図９－４－２参照

ａ．ベルトの回りのカバーを外す。

ｂ．①項と同じ要領で、ベルトの張りをゆるめる。

ｃ．ベルトの継目を捜す。

ｄ．継目の針棒の先端を、ペンチ等で伸ばす。（右図参照）

ｅ．針棒を引き抜く。

ｆ．ベルトを外し、新品に交換する。

ｇ．継目を合わせ、針棒を継目に差し込む。

ｈ．針棒の先端を抜けないように曲げる。（ｄ．項の逆）

ｉ．①項と同じ要領で、ベルトを適度に張る。

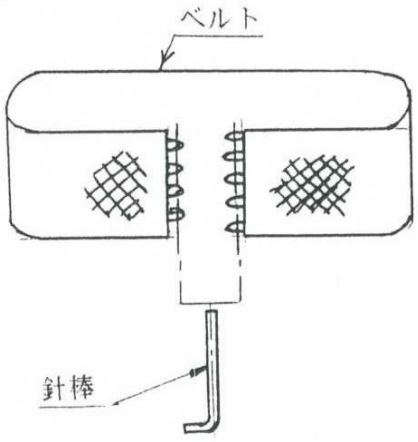


図９－４－２

９－５．トラブルシューティング

機械の点検時には、必ず機械を停止させ、コンセントからプラグを抜いて下さい。
重大事故が発生します。

	現　　象	点　　検	原　　因	調　整　・　処　置
1	漏電ブレーカーを「ON」にしてもすぐ「OFF」になる。	1)運転スイッチ部に水がかかっている。	短絡又は、漏電により同ブレーカーが作動している。	水を除去し乾燥させる。 (注) 機械には絶対に水がかからないようにして下さい。
		2)モーター又はモーター線とのコネクター部に水がかかっている。		
		3)断線箇所があり、機械部分に接触している。	漏電により同ブレーカーが作動している。	断線箇所を修理する。
		4)モーターの絶縁が低下している。		(確認)モーターのコネクターをはずして、漏電ブレーカーをONにし、「OFF」しなければモーターの故障となりモーターの交換が必要です
		5)他に異常はみられない。	漏電ブレーカーの故障	漏電ブレーカーの交換
2	停止押釦スイッチを押してもベルトが停止しない	同押釦スイッチは確実に押されている。	停止押釦スイッチの故障	同押釦スイッチの交換
3	搬送ベルトが走行しない。 (カートンが無い時)	1)ベルト駆動用プーリーも回転しない。	1)モーターにAC100Vが通電しておれば、モーターの故障	モーターの交換
		2)ベルト駆動プーリーは回転しており、ベルトがスリップしている。	ベルトの張りが弱い。	ベルトの張りを適度に強くする。

	現　　象	点　　検	原　　因	調　整　・　処　置
4	搬送ベルトでカートンをはさんでいるが、搬送しない。	1)搬送ベルトが走行しない。	前記 3項と同じ	前記 3項に基づき再チェックして下さい。
		2)搬送ベルトは走行しているが、カートン側面とベルトがスリップしている。	1)ベルトの摩耗が激しく、寿命がきている。	ベルトの交換
			2)上・下作動板の貼付、及び押えゴムローラーの押しあげられた限位置が通常よりも出すぎている。	貼付及び押えローラーの限位置は走行面から0～2㎜程度出るように再調整する。
			3)カートン上面が盛りあがっている。	カートン上面の盛りあがりを極力無くし、平たんにして下さい。
			4)内容物が少なく、サイドベルトではさんだ時、カートン側面がへこむ	パッドを入れるか又は、カートンを小さくし、カートン側面がへこまない様にして下さい。
5	テープが切れない。	1)カッターがアジャストレバー面より上方に取り付けすぎているか、又はカッターをまっすぐに取り付けている。		カッターの取付位置を再調整する。
		2)カッター用スプリングの破損		同バネの交換
		3)カッター刃先に糊が付着している。		シンナー等で清掃
		4)カッター刃先が摩耗又は、破損している。		カッターの交換
		5)カートン面から上面ガイドが浮いており、テープ背面に刃先の引っかき傷が入るだけで切れない。		後記10－2)－2)に基づき再調整して下さい。
		6)テープの繰り出しが軽い。		テープリールのブレーキを強くする。

	現　　象	点　　検	原　　因	調　整　・　処　置
6	カートン前面にテープが貼り付かない。	1)テープの通し方がまちがっている。(糊面が逆になっている。等)		テープのセット図に基づき正しく通し直す。 (図8－6－1参照)
		2)テープ保持ローラー③又は逆転防止ローラー④等の回転が、極端に重いか全く回転しない。同ローラーを交換する。		同ローラー内に注油する。
7	テープの貼付センターがずれている。	1)テープのセットミス		テープをリールに完全に押し込む。
		2)テープと作動板の芯ずれ		テープリールの位置を調整し芯合わせをする。
		3)テープの側面が変形により、不ぞろいになっている。		正常なテープに交換して下さい。
8	貼付したテープにシワが入る。	1)カートン上面と上面ガイドの下面との間にすきまが有る。	調整不良	昇降ハンドルで位置合わせをする。

	現　　象	点　　検	原　　因	調　整　・　処　置
9	テープが蛇行する。	1)カートンを機械センターから極端にずれて供給し、カートンが斜めに搬送される。		機械のセンターに合わせてカートンを供給して下さい。
		2)テープの側面が変形により、不ぞろいになっている。		正常なテープに交換して下さい。
		3)外部の力により、リールプレートが曲がり、テープリールの軸芯が斜めになっている。		リールプレートを、まっすぐにするか、交換をする。
10	テープ貼付中に、テープが切れる。	1)カッターではなく、テープ自身で切れている。	1)テープを通している各ローラーの回転が異常に重く、テープが伸びて切れる。	ローラーの交換
			2)テープリールのブレーキが極端に強い。	ブレーキをゆるめる。
		2)カッターで切れている。	1)カッターの取付高さ不良で、アジャストレバー⑩より刃が出ている。	アジャストレバー⑩より刃がでないよう調整する。(図8－6－1参照)
			2)カートン上面から上面ガイドが浮いており、カッターがテープに接触し、テープが切れる。	ハンドルで高さ調整